

# 地域再生システム論 第3回

～福祉の現場での農業活用方法と地域活性化への展開～



2008年11月29日(土)午後1時～4時

農学部Ⅲ号館  
4階多目的室

テーマ:「練馬方式」農業体験農園

都会の農家だからできる子供が育ち、市民が学び、癒しの場となる  
“体験型市民農園経営”と“生産緑地保全”の両立

～農家の努力で守り育てられてきた都会の優良農地を「生産緑地」として孫の代まで守り続けたい。その思いが生み出した「練馬方式」と「障害者雇用」を両輪とする農業経営。白石さんの経験と夢に行政の施策と目指す方向を重ね合わせて都市農業の未来について考えます。～

講師:白石好孝氏(練馬区農業体験農園「大泉風のがっこう」主宰)

30種類の野菜を生産販売するとともに、農業体験農園「大泉風のがっこう」を運営されています。また、地域の子どもたちに農業体験をすすめる「NPO法人 畑の教室」の代表でもあります。農業体験農園とは・練馬区が管理する区民農園・市民農園とは異なり、農家が開設し、耕作の主導権を持って経営・管理している農園です。利用者は入園料・野菜収穫物代金を支払い、園主(農家)の指導のもと、種まきや苗の植付けから収穫までを体験します。

コメンテーター

森田健児氏(農林水産省農村振興局都市農村交流課 都市農業室長)

鈴木 毅氏(岡山県観光物産課 課長)

コーディネーター

岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター

センター長 吉田裕一(yyoshida@cc.okayama-u.ac.jp)

